

ゆいま～る厚沢部

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 □住宅 ○
〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 〔補助金〕 ■内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ○
〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 ■新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存
〔対象者〕 ■高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー □多世代



写真 1. 外観写真 (コミュニティネットの資料より)

ゆいま～る厚沢部は介護付有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、食堂、ギャラリー等を併設した高齢者複合福祉施設である。役場・学校・図書館・体育施設等が立地している町の中央部に位置しており、周辺の住民が食堂やギャラリーに自由に足を運ぶことができるのが特徴。住まい・集う・介護という3つのコンセプトがあり、住民の相互扶助が行われている。

■施設概要

所在地：北海道檜山郡厚沢部町新町 115

施設種別：介護付有料老人ホーム 20 戸

グループホーム

デイサービス

食堂

ギャラリー

運営主体：株式会社コミュニティネット

設計：株式会社プラスニューオフィス

敷地面積：2842.81㎡

建築面積：1260.00㎡

延床面積：1310.09㎡

構造・階数：木造一部 RC 造 平屋建て（一部 2 階建て）

総戸数：20 室

住戸専有面積間取り：20.28㎡

運営開始：2013 年 5 月

■運営概要

ゆいま～る厚沢部の所在地の厚沢部町では人口減少が進展している。ピーク時の 1960 年時点で 1 万人以上いた人口は、2016 年時点で 4,400 人余りとなり、人口減少が著しい過疎地域である。厚沢部町では「持続可能となる素敵な過疎のまちづくりによる生涯活躍のまち構想促進事業」を総合戦略の一翼とし官民協働、地域間連携、政策間連携のいずれも先駆的要素が含まれている事業と認定され、地方創生推進交付金も交付されている。（平成



写真 2. 立地周辺

厚沢部町の中心街は町役場、学校、金融機関、郵便局などが存在し、その一角にゆいま～る厚沢部も位置する。



写真 3. ゆいま～るギャラリー

玄関から食堂へ繋がるオープンスペース。趣味の集まりからコンサートやセミナー、子育て世代の交流など、地域の人が利用できる場所となっている。

参考文献

- 1) 「生涯活躍のまち」に関する取組事例集 平成29年3月 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局（委託先：(株)野村総合研究所）
参照 平成29年12月1日
- 2) KJ 2013年6月号 参照 平成29年12月1日



写真4. 介護付有料老人ホーム 機能訓練室兼食堂
老人ホームの中心部に位置する。まわりは居室が配置され、近隣小学校の体育館に向かって開口部が設けられている。

28年度第1回先駆タイプ事業として認定）これらの背景から、ゆいま～る厚沢部は運営場所として、町役場、学校、金融機関、郵便局の近くである、町の中心地が選定され、町に対して影響力が大きい施設を目指す計画が建てられた。まず課題として挙げられたのは、過疎化による町立病院衰退からの再生であった。過疎化による町立病院の医師不足、高齢者の社会的長期入院、売上げを上回る人件費の問題を解決するべく、ゆいま～る厚沢部では、多様な介護サービスと行政の厚沢部町と連携することで、社会定期入院の減少を促し、それだけでなく、医療・介護・福祉の総合的な地域ケアシステムの構築にも関係している。

■まちづくりのプロセス

厚沢部町では、町の地域包括ケア等に関する調査業務を株式会社一般社団法人コミュニティネットワーク協会（以下コミュニティネットワーク協会）が受託していた背景があり、人口減少を踏まえた厚沢部町のまちづくりについて議論が重ねられていた。株式会社コミュニティネット（以下コミュニティネット）では、地域の課題やニーズを深く把握するために「地域プロデューサー」を



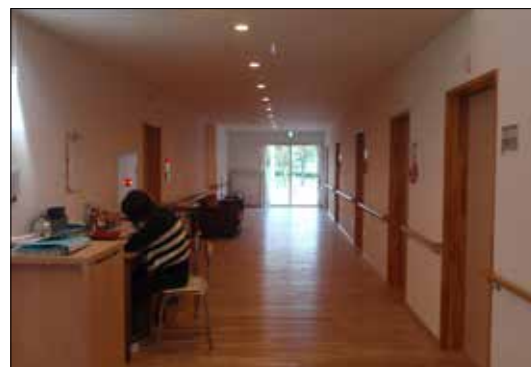
図1. 配置図兼一階平面図（コミュニティネットの資料より）

1階に介護付有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、食堂、2階に事務室と機能を一階に集約している。諸機能施設の共有空間の開口部が近隣小学校にむけて開かれることで、地域との繋がりを創出できるようになっているのが特徴。

を実施（1年間で140件程度実施）したことで、地域課題や住民ニーズだけでなく、どのような経験・能力・得意分野を有するゆいま～る厚沢部での重要なプレイヤーが地域に存在するかを把握した。

ゆいま～る厚沢部では、コミュニティネットの自己資金と、国・町からの補助金を中心に総事業費を賄っている。補助金は、林野庁（農林水産省の外局）の「森林・林業・木材産業づくり交付金」、厚沢部町の「入居者支援対策事業に係る補助金」をそれぞれ1億円活用している。前述した「地域プロデューサー」の調査より、ゆいま～る厚沢部では、「近隣住民による住み替え」を想定した収支構造を検討し、「月10万円前後での生活」という住民の支払意思額の推定をしていた。これを実現するために林野庁や町からの補助金、町有地をを活用することで賃料設定軽減に努め月2万円の賃料（管理費、食費、水光熱費は別）が実現された。このことから資産運用の面から近隣居住者（当事者とその家族など）の住み替えに対する意欲を十分にし、ゆいま～る厚沢部の実現性を高めていった。

ゆいま～る厚沢部は、厚沢部町内または近隣地域の住民が住むことを想定してつくられ「安心して暮らせる終のすみか」をつくりながら、そこに暮らす人たちのコミュニティの拠点、雇用の創出、過疎地活性化をコンセプトとしている。前述の通り、ゆいま～る厚沢部は、町の中心地に立地しているために、周辺の住民が自然と行き来するような場所となっている。「ゆいま～る食堂」では、町役場や図書館、金融機関、郵便局、パークゴルフ場、町民プール等に訪れた周辺の住民が、気軽に立ち寄って食事をしたり、お茶を飲んだり、話をできる場所として、



```

graph TD
    A[厚沢部町] <-->|基本協定の締結| B[株式会社 コミュニティネット]
    B <-->|補助金や町有地使用の申請| C[株式会社 素戔鳴造碑づくり株式会社]
    B <-->|連携| D[ゆいまへる食堂  
(有限会社基元が運営)]
    B <-->|連携| E[サービスバス等  
(有限会社雄山介護事業所が運営)]
  
```

3

参考文献

1) 日本版C C R Cの具現化と「ゆいま〜る」の事例 紹介 株式会社コミュニティネット代表取締役 高橋 英與 2015年7月22日参照平成29年12月1日

開放され時には、食堂がライブ会場のように、周辺の住民が音楽を奏でる場所として使用されている。「身体が弱ってきたとき、気軽に外出することが困難な高齢者こそ、町の中心地に住むことで、学校で行われる運動会の練習を窓からそっと覗いたり、町役場の人が食堂にお昼を食べに来たり、といった、自然な社会との交流が促進できる」という、コミュニティネット代表の提案がなされ、この考えには、町長も賛同し、敷地内に図書室や食堂、ギャラリー等、周辺の住民が気軽に訪れることができる場所が設けられた。

◆ 地域との繋がりが暮らしやすさに

ゆいま〜る厚沢部は、厚沢部町内または近隣地域の住民が住むことを想定してつくられています。「安心して暮らせる終のすみか」をつくりながら、そこに暮らす人たちの「コミュニティの拠点」として「雇用の創出」等、「過疎地の活性化」をコンセプトに置いている。前述の通り、ゆいま〜る厚沢部は、町の中心地に立地しているために、周辺の住民が自然と行き来するような場所となっている。

■暮らしやすさの支援

ゆいま〜る厚沢部では、住民一人一人にケアプランの目標を設定し、それに対応したプログラムづくりを行う等で、ケアが実践されている。

また、朝のラジオ体操や、レクリエーションなどの日常的なプログラムに加え、郷土料理の提供や、近隣学校の子供たちとの交流会（不定期）の開催など、アクティビティの充実が図られている。さらに、月に1回は「お買い物ツアー」を開催するなど、自身で買い物ができるようなプログラムも設けられている。居住者に対する食事制限等のルールは基本的には設けず、部屋のインテリアも住民自身で選択することができるようになっている。

■ゆいま〜る食堂

「ゆいま〜る食堂」では、町役場や図書館、金融機関、郵便局、パークゴルフ場、町民プール等に訪れた周辺の住民が、気軽に立ち寄って食事をしたり、お茶を飲んだり、おしゃべりをでき

る場所として開放されている。時には食堂がライブ会場のように、周辺の住民が音楽を奏でる場所として使用される場合もある。

■プログラムによる居住者の介護度低下

計画・プロモーション設計、資金調達、地域連携などを利用した施設のプログラムは、ゆいま〜る厚沢部居住者の当初の平均介護度は2.7から翌年には1.6にまで低下した。「みんなで食事する」「規則正しい生活をする」ということを実践したことが居住者、スタッフからの意見である。

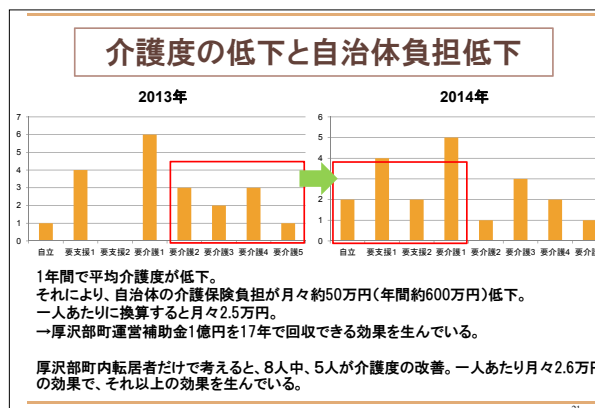


図3. ゆいま〜る厚沢部での介護度低下の変遷グラフ（日本版C C R Cの具現化と「ゆいま〜る」の事例 紹介 株式会社コミュニティネット代表取締役 高橋 英與 2015年7月22日 より抜粋）

作成者：榎村